

# 点描ぐんま経済

日銀支店長  
見聞録

■92■

いつでもどこにでも

あるように実はそうでもないもの、その代表が

水だろう。湧水が起きれば当然それに気付く。だが、水不足のリス

スクは常に潜んでいる。経済成長に伴い工業用水などの需要は拡大

し続ける一方、利用可能な水資源はすぐに増

やせない。これは世界的な関心事でもあり、経済協力開発機構

(OECD)の2012年の見通しによれば、50年の世界の水需

要は00年比で5割強増加する。

利根川水系が全域に広がる群馬は、水資源が豊富だ。「日本の名

## 箱島湧水

水百選」に選ばれている東吾妻町の箱島湧水も支流の水源の一つ。箱島不動尊と町指定天然記念物の大杉、そし

## 群馬の水の恵み

て勢いよく流れる湧水がつくる雲囲気は神秘的だ。直接くんで飲む水は冷たく、おいしい。駐車場には「東吾妻町箱島湧水発電所のご案内」の看板がある。現在も残るダムの跡からうかがわれるように、箱島湧水はかつて水力発電に用いられていた。しかし、老朽化を受け1956年に廃

止。それが半世紀以上を経た2017年、以前と同じ場所に発電所が新設され、水力発電が復活したのだ。東吾妻町が採用したのはPFI（プライベート・ファイナンス・イニシアチブ）という、民間の資金とノウハウを活用し、公共施設の

を再び發揮させたのは慧眼というしかない。箱島湧水は飲み水や発電だけでなく、町内の農業や淡水魚の養殖にも用いられる。駐車

料水は全国2位であり、広く人々の喉を潤している（18年、経

建設・運営などを行う手法。この場合、売電収入を事業者と東吾妻町が分け合う。今や再生可能エネルギーの拡大が必須となり、小水力発電にも注目が集ま

る。脱炭素の流れが加速する前に、公共サービスの現代的な提供手法であるPFIを用いて箱島湧水の力を再び發揮させたのは慧眼というしかない。

場でも無人販売されるゼリとクレソンのおいしさは水のきれいきゆえであろうし、わが家はここで育てられたギンヒカリの薫製が大好きだ。下流には虫も飛ぶ

と、水の恵みを目で見ると、舌で味わい理解することができる。群馬の水資源はわが国の貴重な財産だ。ご存じの通り利根川上流のダム群は「首都圏の水がめ」。また、群馬から出荷されるミネラルウォーター・清涼飲料水は全国2位

らうかがわれるように、箱島湧水はかつて水力発電に用いられていた。しかし、老朽化を受け1956年に廃



渡辺真吾（わたなべ・しんご） 1972年生

まれ。岡山県出身。東京大経済学部卒、米ミシガン大で経済学博士号取得。95年に日本銀行入行後、大阪支店営業課長や金融研究所経済ファイナンス研究課長などを経て、2020年9月から現職。